



思いを託す、 門出の時

真新しい校舎の木の薫りに包まれながら、90名の生徒が新たな門出を迎えました。

3月15日（水）、大槌学園の卒業式が挙行されました。今年度から県内唯一となる小中一貫教育を実施。平成28年9月に完成した新校舎で初となる卒業式では、在校生や保護者が見守るなか中学3年生にあたる9年生90名ひとりひとりに大森厚志学園長から卒業証書が授与されました。

卒業生は、東日本大震災後、仮設校舎が整備されるまで、吉里吉里小学校の体育館や山田町にある「陸中海岸青少年の家」で授業を受けていました。仮設校舎が整備された後も、決して十分ではない学校生活の環境の中で、逆境に挫けず、支え合いながら授業を受けたり、部活動に取り組む生徒の姿は多くの人を勇気づけてきました。

式では、在校生代表の高木李子さんから卒業生へ「体育祭、文化祭、部活動など様々な面で私たちの憧れでした。先輩方が刻み始めた大槌学園の歴史をこれから私たちが刻み続け、共に創る学園を築いていきます」と送辞を述べ、卒業生代表の永井雄大さんが学園生活での思い出、今まで支えてくれた保護者や教師へ感謝の言葉を述べた後、「大

槌学園は長い歴史の中で先輩方が代々積み重ねてきた伝統を受け継ぎ、町の未来を明るくできる学校です。この学園で学べることに誇りと自信をもって充実した時間を過ごしてください」と答えました。

式終了後、卒業生が合唱を披露。震災を乗り越え、同じ学び舎にたくさんさんの思い出を刻んだ仲間とともに歌う最後の曲は「ふるさと」と「友」の2曲。時折り涙ぐみながらも、3年間の思いを歌声にこめました。

吉里吉里学園中学部でも3月15日（水）に卒業式が挙行され、22名が輝く海に見守られた学び舎を巣立ち、それぞれの道のスタートラインに立ちました。

式では、在校生代表の東谷哉汰さんから「様々な行事や日常生活を通して、吉里吉里学園の伝統を優しく時には厳しく教えてくれて、さらに、新たな伝統を加え、吉里吉里学園をより高めてくれました。先輩方が築き上げてきた伝統を引き継ぎ、これからの吉里吉里学園を引っ張って行きたいと思います」と送辞を述べ、卒業生代表の芳賀勝さんは「今日までともに歩んでくれてありがとうございました。皆さんと取り組んだ活動はどれも良い思い出です。吉里吉里学園は来年度で3年目を迎えます。地域とのつながりを大切に、これまで以上に地域に愛される吉里吉里学園を築いてください」と答えました。

式終了後、昇降口の前で、在校生、卒業生がエール交換を行い、互いに祝福と激励を贈りました。

また、3月17日（金）には、吉里吉里学園小学部において、はばたき式が開催され、14名の児童が中学部にはばたきました。式では、卒業生から小学部での思い出など「門出のことば」が述べられ、在校生、卒業生それぞれによる合唱では、力強く美しい歌声が会場に響きわたりました。